

## 9年間で子どもを育む

子どもたちにとって、『家庭』や『地域』と違い、『学校』は、小学校から中学校へ、そして高等学校などへ成長にあわせて環境が大きく変わるものです。

中学校に入学期後、これまで過ごしてきた習慣との違いを受け入れることができず、学校での楽しさが見いだせない、毎日の勉強についていけないなど、子どもにとって大きく環境が変化することで生じる『中1ギャップ』と呼ばれる問題があります。

小学校の6年間で中学校の3年間を分けて考えるのではなく、連続した9年間ととらえて一貫した教育を行うことで、新たな学校生活を始める子どもたちが感

じる戸惑いなどを可能な限り減らすことができると同時に、それぞれの活動をつなげることでより充実した教育活動が展開できます。

市教育委員会は、平成28年度には『登別中学校区』と『西陵中学校区』をモデル校区に指定し、9年間で子どもを育む視点に立った取り組みを進めています。

現在、その成果の検証をしながら、市内の全中学校区で展開されるよう各々との協議を進めているところです。

全国的にも、すでに『小中一貫教育』に取り組んでいる学校の多くが「中1ギャップが緩和された」、「上級生が下級生の手本となろうとする意識が高まった」、「地域との協働体制が強化された」など、「効果がある」としていることか

らも、9年間で子どもを育む視点に立つことは非常に有効であり、また、小・中学校の学校運営協議会が連携することで、地域の特色を活かした学校運営がさらに進むものと考えています。

### 知ることから始まる

#### 『開かれた学校』

『地域とともにある学校』は、地域社会に開かれた学校であることから始まります。

市教育委員会では、広報「教育のほりべつ」やコミュニティスクール通信、学校便りなどを通して、各学校の行事予定や子どもたちの様子をお知らせしています。また、実際の授業や活動などを見て、各小・中学校の教育活動への理解を深めていただくため、11月1日の『北海道教育の日』にあわせ、『教育ふれあいウィーク』を設け、市内の小・中学校の授業を一般公開しています。

## 小中一貫教育の取組



平成28年度にモデル校区において実施した『小中一貫教育』の取組事例をいくつか紹介します。

### 1 小・中学校の教員がそれぞれの授業を参観

小学校と中学校の教員がお互いの授業参観や協議を行い、『学校』での日常的な指導方法の共通化を図り、小学校と中学校が9年間を通した一貫性のある指導を行いました。



### 2 小学生と中学生に共通した日頃の目標設定

学校を離れてからも、身に付けてほしい具体的な習慣について、小・中学校が連携して『家庭』に協働を呼びかけました。

### 3 小学生と中学生で合同あいさつ運動

あいさつ運動や避難訓練など、小学生と中学生が合同で行う機会を積極的に設けることなどで、小学生にとって中学校を身近な存在に感じ、子ども同士がつながりを感じることができるよう取り組みを行いました。



### 平成29年度ふれあいウィークの日程

10月28日(土)	<ul style="list-style-type: none"> <li>登別小学校</li> <li>幌別東小学校</li> <li>幌別西小学校</li> <li>青葉小学校</li> <li>富岸小学校</li> <li>鷺別小学校</li> <li>若草小学校</li> <li>緑陽中学校</li> </ul>
11月11日(土)	<ul style="list-style-type: none"> <li>幌別小学校</li> <li>登別中学校</li> <li>幌別中学校</li> <li>西陵中学校</li> <li>鷺別中学校</li> </ul>

### 平成28年度、モデル校区として「小中一貫教育」に取り組んだ小・中学校



幌別西小学校 (左) と西陵中学校 (右)



登別小学校



登別中学校

子どもたちがどのように活動し、どのような環境で学んでいるのか、地域の皆さんに知っていただくことから『地域とともにある学校づくり』が始まります。ぜひ一度、お近くの学校をご覧くださいませ。

問い合わせ  
学校教育グループ

(☎88)1162